

収録・解説 酒井董美

語り手 別所菊子さん
(明治35年生まれ)
昭和63年8月23日収録

あらすじ

昔、宮本左門之助といふ侍が諸国を回っていたところ、大きなむく犬を鎖で縛っており、その犬が涙を出していた。

「何でこがしてあるのか」「この家の人にかみついたので、こがぁにしてある」「わしにくれんか」「連れて逃げてくたさい」
犬もらって次の村に行ったら、みんなが泣いていた。「こら泣き村ちゅうとこだか」って聞かれたら、「泣き村じゃ」ぞんせんけど、ここの氏神さんは祭りに若い娘を御供にあげにゃあならん。

猿神退治

(東伯郡三朝町吉尾)



イラスト・福本隆男

人身御供から村救う

それで今年には庄屋の娘さんに白羽の矢が立って、みんないとしゅうて泣いたりします」って言った。

宮本左門之助は「人助 お宮さんが上がって置いてしられならんやな神さんが、人身御供をあげられるなんて不思議なことだ。わしに任してござんか」って櫃をこしらえ、中に入れて片一方には庄屋の娘さんを入れ、片一方にはその犬を入れて、ふたが取れるやにして、

お宮さんの上がって置かれや歌えや相撲やいろいろしよった。「お供えをいただく。若い者はタヌキやキツネの子や古ダヌキの夫婦で、それをみな犬が噛んだ。」

「お供えをいただく。若い者はタヌキやキツネの子や古ダヌキの夫婦で、それをみな犬が噛んだ。」
「お供えをいただく。若い者はタヌキやキツネの子や古ダヌキの夫婦で、それをみな犬が噛んだ。」
「お供えをいただく。若い者はタヌキやキツネの子や古ダヌキの夫婦で、それをみな犬が噛んだ。」

解説

そのおじいさんが「愛想のないやつらばっかだし、むく犬が出てあちこち若いもんをかみ殺した。で、おじいさんとお話大成」の分類では、本格的昔話の「愚かな動物」に戸を開けて入りかけたところを、宮本が鉄砲でねらって撃った。

夜が明けたら「生きておらんだも知らん」て村

関敬吾博士の『日本昔話大成』の分類では、本格的昔話の「愚かな動物」の中の「猿神退治」として登録されている話型が、それである。

(元鳥取短期大学教授)
(水曜日掲載)